

系統グループの農工商等連携事業紹介

～硬さの調整ができる卵焼きペースト

少子化や不景気に放射能問題も加わり、生産物を安定して高収益で販売することの重要性は増すばかりである。消費者は特売品に流れ、畜産物をつくり、売る側は付加価値の高い生産物をつくるには知恵や人脈、お金も必要だと、頭を悩ませる。そんな中、生産者から消費者まで含めたメリットの輪をつなぐ産業振興策の一つに「農工商等連携」という考え方がある。

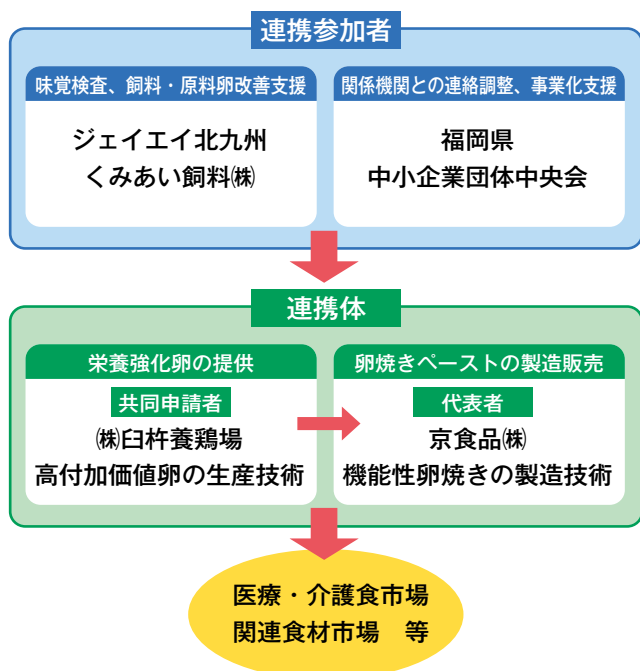
「農工商等連携」とは農林漁業者と商工業者等が協力し、単独ではできない、お互いの強みを活かした商品開発・生産を行い、売り上げや利益を増やす取り組みである。平成20年には「農工商等連携促進法」が制定され、取り組みに対する補助金や低利融資、信用保証、設備投資減税の枠組みもできた。今回は系統グループで取り組んだ農工商等連携事業をご紹介します。

●地域での取り組みのかたち

北部九州地区でくみあい配合飼料の製造を行う、ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社とその子会社である(株)臼杵養鶏場は、地域の取り組みの参考となるべく、地域で高い技術を持つ鶏卵加工・販売業者と手を組み、この農工商等連携事業に取り組んだ。

(株)臼杵養鶏場は「農林漁業者」として、海藻や生菌剤を添加した独自飼料の給与で、鶏を健康的に飼育管理し、栄養強化された鶏卵の生産を担っている。

図：農工商等連携事業のかたち



また、鶏卵加工業者の京食品(株)が「中小企業者」として、味と食感を調整した卵焼きの製造技術開発と、その技術を活かした医療食向けの商品開発と販路開拓を行う。

北九州くみあい飼料(株)は「連携参加者」として卵焼きの味覚検査や、配合飼料の基礎研究等を通して、原料卵の試作や開発を行い、各支援機関との連絡調整も行った。

●新しく生まれた商品構想

機動的な商品開発ができ新しい卵焼き商品をつくりたいメーカーと、鶏卵を高付加価値で売りたい農場がアイデアを出し合い「硬さの調整ができる卵焼きペースト」の構想が生まれた。

これは栄養価の優れたおいしい卵焼きを、噛む力の弱い要介護者の方々にも食べていただきたいという発想から生まれたものである。そしてこのアイデアが、「農林漁業者」と「中小企業者」それぞれの売り上げや収益に相乗効果をもたらすとして、農工商等連携事業の認定を受けることになった。

実際に商品が発売されるまでは、これから技術の開発や販路の開拓が必要だが、これらは制度支援を受けて行われる。

また、実用化されると農場にとっては格外卵の有効活用や販路の広がり期待され、卵焼きメーカーにとっては医療・介護食市場での事業展開による売り上げの増加と収益性のアップがもたらされることになる。

事業計画の認定はスタートにすぎない。これからよい商品をつくるための仕事が待っているが、将来を見すえた前向きな取り組みを支援するような制度もぜひ活用してはいかがだろうか。

詳しい相談は、全国の中小企業応援センターや中小企業基盤整備機構の各支部などが受け付けている。新しい知恵やひらめきが結びつき、少しでも生産者の経営改善が行われれば幸いである。



硬さが調整できる卵焼きペースト(上)医療・介護食として展開している(下)